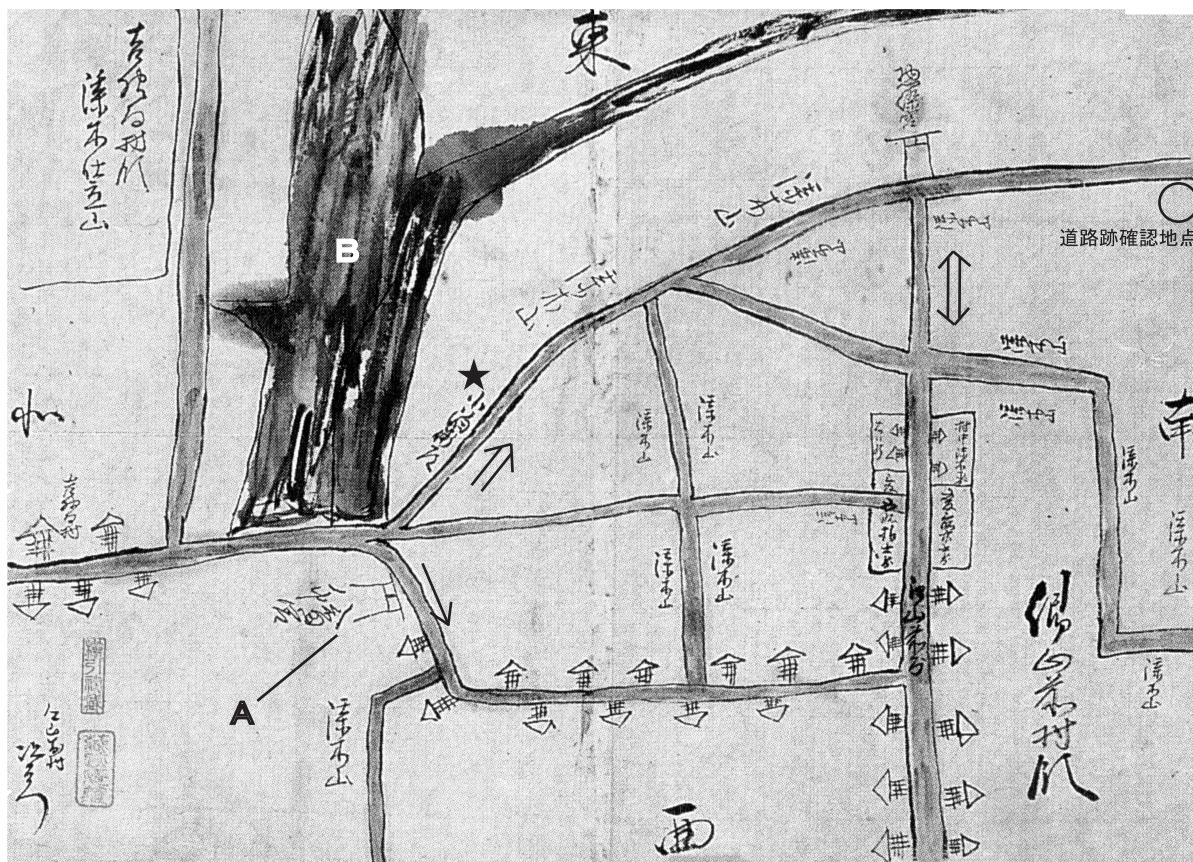


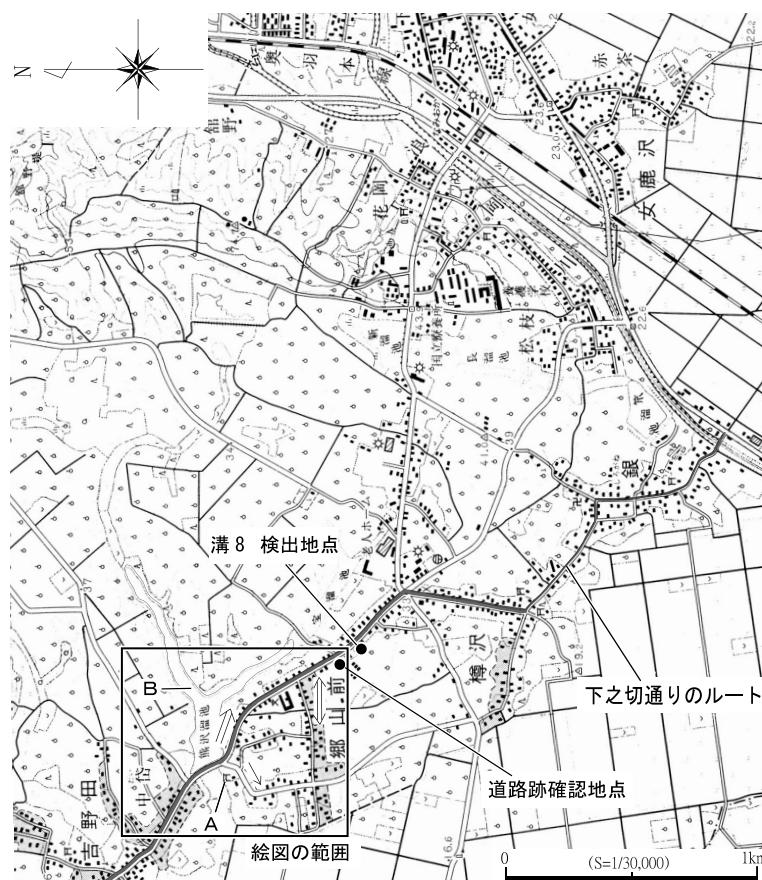
(4) 道路(街道)跡について

I・J区では、地面が叩き締められたように硬化する部分が37mにわたって直線的に検出された。この硬化面は、通常の生活面としてはあまりに硬化が進んでおり、硬化面脇には自然堆積によって埋没した溝跡が検出されたことから、側溝を伴う道路跡と考えられた。側溝の出土遺物で最も新しいものは、18～19世紀の所産である肥前系陶器の徳利(図63-1)で、江戸時代の遺物はこの1点である。道路跡硬化面の上部に堆積した黒褐色土からは、明治時代以降の陶磁器やガラス片が出土しており、側溝の一部は硬化面上に黒褐色土が堆積した後に掘り直されていることも判明した。側溝の出土遺物が陶器1点のため、これから年代を推定することは困難だが、近代には古い段階の側溝が埋まり切っていたものと考えられるため、近世に遡る道路跡と推定される。上野遺跡の所在する大字郷山前および樽沢地区には、近世弘前藩の公道である「下之切通り(小泊道)」とよばれる街道跡が通っていたことが知られている。図66-aは江戸時代末期の嘉永5年(1852年)以降に成立したと考えられる『郷山前村漆山絵図』である。図66-bはaとできるだけ方位を合わせるように配置した発掘調査地付近の地形図で、両者に描き加えた記号は同一の場所であることを示している。すなわち、Aで示した神社の東には、Bで示した溜池が位置し、A地点では⇒と→で示した道が東西に分岐する。⇒の道はa図では「小泊街道」と表記(★印の部分)された「下之切通り」で、溜池沿いに南東へ向かう道筋は現在県道になっている。→の道はA地点から分岐して南西に向かい、その後郷山前集落の中心に向けて南下する。↔の道は郷山前集落を東西に横切る道である。これらから、少なくとも⇒・→・↔で示した3本の道は、a・b両図で一致している。また、b図上には上野遺跡の発掘調査で道路跡または側溝と考えられる溝跡が確認された地点を●印で示した。これらの場所は↔で示した東西方向の道の南側に位置し、今回道路跡を検出した地点は、a図右上隅に相当すると考えられる。以上から、「下之切通り」は県道五所川原浪岡線と重なっていると考えられ、県道沿いで検出された江戸時代と考えられる道路跡は「下之切通り」で、道路跡脇の溝跡は同街道の側溝である蓋然性が高い。なお、今回の発掘調査で街道側溝とした溝跡と類似したものが、I区南端から南に120m隔たった一次調査のトレーニングチ19で溝8として長さ5mにわたって検出されている(図66-c)。溝8は今回調査した街道側溝と同様に出土遺物がなく、報告時には時期判断がされていない。自然堆積によって埋没していることや、幅50cm、深さ40cmと同規模であることから、両者が同じ道路の側溝である可能性は高い。『郷山前村漆山絵図』は、街道沿いが集落ではなく漆の栽培地であったことを記しており、発掘調査地内で江戸時代の遺物が少ないと考えられる。「下之切通り」は弘前藩の公道のうちで大道に次ぐ小道に位置づけられており、発掘調査地付近の道幅は一間半～二間(3m程度)と考えられている(青森県教育委員会1984)。

青森県内における近世の街道跡は、西津軽郡深浦町に所在する塗野遺跡で大道に位置づけられる西浜街道(羽州街道旧ルート)の検出例がある(青森県教育委員会2003)。その路面幅は最大で4.5m、側溝は開口部の最大幅3.5m、底面の最大幅1.2m、深さは1mを測り、今回検出された「下之切通り」より規模が大きい。



a) 郷山前村漆山絵図（弘前市立博物館蔵）



b) 発掘調査地付近地形図

c) 2006年調査 溝8
(矢印部分)

図66 下之切通り関連図

参考文献一覧

- 宇野隆夫 1992 「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集
- 狭川真一 1993 「墳墓にみる供獻形態の変遷とその意味—北部九州を中心として—」『貿易陶磁研究』No.13
貿易陶磁研究会
- 木村 高 1998 「青森県域における在地土器の編年について—津軽地方・11世紀中葉から12世紀前半—」
『東北地方の在地土器・陶磁器』II 東北中世考古学会第4回研究大会資料
- 尾野善裕 2003 「古代の尾張・美濃における緑釉陶器生産」『古代の土器研究—平安時代の緑釉陶器・生産地の様相を中心にして—』古代の土器研究会第7回シンポジウム
- 古代の土器研究会編 2003 「全国緑釉陶器生産関連遺跡出土遺物集成」同上
- 岩井浩人 2008 「津軽地域における古代土器食膳具の変遷—9世紀から11世紀を中心に—」『青山考古』第24号
青山考古学会
- 木村淳一 2008 「日本海域における古代の祭祀—木製祭祀具を中心として—「東北地方（米代川流域～津軽）」」
『石川県埋蔵文化財情報』第19号 財団法人石川県埋蔵文化財センター
- 岩井浩人 2009 「津軽南域における古代の土器様相」『扶桑』田村晃一先生喜寿記念論文集
- 高橋照彦・長尾正義 2010（3月刊行予定） 「三沢市平畠(1)遺跡から出土した緑釉陶器について」『研究紀要』第15号
青森県埋蔵文化財調査センター
- 愛知県陶磁資料館・五島美術館編 1998 『日本の三彩と緑釉一天平に咲いた華—』五島美術館展覧会図録 No.121
- 九州近世陶磁学会編 2000 『九州陶磁の編年』 九州近世陶磁学会
- 浪岡町 2000 『浪岡町史』第1巻
- 青森県 2002 『青森県史』別編 三内丸山遺跡
- 浪岡町 2002 『浪岡町史』別巻I
- 青森県 2005 『青森県史』資料編 考古3 弥生～古代
- 青森県 2008 『青森県史』資料編 古代2 出土文字資料
- 青森県教育委員会 1978 『高館遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第40集
- 平賀町教育委員会 1988 『旧大光寺城(2)遺跡』平賀町埋蔵文化財報告書第17集
- 青森県教育委員会 1984 『下之切通り（小泊道）』青森県「歴史の道」調査報告書
- 青森県教育委員会 1994 『山元(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第159集
- 青森県教育委員会 1995 『山元(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第171集
- 青森県教育委員会 1998 『高屋敷館遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第243集
- 青森県教育委員会 2003 『尾上山遺跡・塙野遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第347集
- 青森県教育委員会 2003 『野尻(1)遺跡V』青森県埋蔵文化財調査報告書第351集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2003 『細谷地遺跡発掘調査報告書 第4・5次調査』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第414集
- 五所川原市教育委員会 2003 『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第25集
- 青森県教育委員会 2006 『潟野遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第412集
- 青森県教育委員会 2005 『高屋敷館遺跡III』青森県埋蔵文化財調査報告書第393集
- 青森県教育委員会 2005 『山元(1)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第395集
- 野辺地町教育委員会 2007 『二十平(1)遺跡』野辺地町文化財調査報告書第15集
- 青森県教育委員会 2008 『上野遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第445集
- 青森県教育委員会 2008 『寺屋敷平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第450集
- 青森県教育委員会 2009 『新田(1)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第472集
- 青森県教育委員会 2009 『中平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第474集